

# 市民文芸

## 応募方法

一人俳句三句、短歌三首、川柳三句以内。はがきに作品・住所・氏名・応募する壇名をはっきり書き、〒989-0257白石市字互理町37-3、白石市情報センターへ。はがき1枚に短歌、俳句、川柳の併記は不可。毎月15日締め切り。Eメールでも応募できます。(koho@city.shiroishi.miyagi.jp)

## 歌壇

岩崎 聰之介 選

廃屋となりて久しきわが伯父の屋敷の竹のは  
びこりにけり 鈴木 和江  
梅雨寒のけふも小雨やうぐひすの声は透り来  
武家屋敷より 岡崎 澄子  
夕餉にはコロッケ添へむうきうきとじやがい  
もの小粒ゆでて皮むく 阿部みさ子  
畑一面うす紫の馬鈴薯の花咲きをりて暑き一  
日 石沢 敏子  
城の会琴の音ながるる城山に野点のお茶を妻  
と味はふ 水戸 光穂  
やぶ中を淡竹取らむとこぎてゆき隅に熟れた  
る木苺にあふ 八嶋 正子  
長雨に今年の作はいかにぞと稲つくり止めし  
吾も気になる 平間 久子  
軒毎に七夕飾る風習もいつしか絶えき時の流  
れに 佐藤 ひで  
つくばひに落つるしずくの音きよく涼風も立  
つ夏の夕ぐれ 大槻 正兄  
おばあちゃん長生きしてね愛らしく孫の励ま  
すわが誕生日 斎藤タカ子

## 俳壇

遠藤 秋尾 選

評 一首目。竹を使うくらしはこのお屋敷に  
もあつたであろうが、今は地下茎のおもむく  
まま。立ちつくす作者のさまが伝わる。二首  
目。かつての町割を思わせつつ驚愕は、読む  
ものにも梅雨のうっとうしさを忘れさせる。  
三首目。楽しく廚の夕べを描く。

山裾の景一変す梅雨の霧 山家 弘子  
老友に日傘さしかく湖畔かな 福原 峯子  
手のひらに包む螢火洩れ易く 鈴木 民子  
夏服に軽く着替へて若返る 日下 文  
佐藤 周子

## 柳壇

山田 風流 選

評 一句目。紫陽花に故人を偲ぶ。二句目。  
襲いくる霧を一句に。三句目。老俳友を気づ  
かうやさしさ。湖畔は美しい。  
【作句についてのお願ひ】①まず歳時記を手  
元に。②句の中に必ず季語を一つだけ使う。  
③五七五の十七文字で作ること。④できれば  
句会で基本を学ぶのが最良の方法。⑤文字は  
ていねいに楷書で。以上お願いします。  
【歳時記は俳人のバイブル】

オレオレと言つてるオレの顔がない  
大庭 良子  
札束の誘いに悪の臭いする 草野 清  
口だけは年齢を知らずによくしゃべり 阿部みさ子  
若いねと言われ五十路の血が騒ぎ 小野嘉津子  
いい返事聞いてやすらぐ今朝の幸 米沢 礼子  
退院のビール五臓にしみわたり 四竜 英夫  
税を上げ大盤振舞い外へ向け 水戸 光穂  
初孫が生まれ家中大騒ぎ 高子うこん  
目薬を差すのに口もお手伝い 石沢 敏子  
三猿の訓え悲劇を生む世相 阿部はぎの

評 一句目。最近の詐欺の口口の一つ。不況  
は種々の犯罪も進化させる。用心用心。二句  
目。犯罪の大半は金にまつわることが多い。  
欲望が強いと弱点となる。足ることを知るこ  
とが肝要。三句目。よくしゃべるから舌にシ  
ワがない。よく使つて脳ミソにも心にもシワ  
をよせないようにしましょう。

# マイサークル

中央公民館押し花サークル

149

～四季折々の思いを花に託して～



今年で14年目を迎えた私たちの押し花

サークルは、現在9名で活動しています。

毎年開催される「公民館まつり」に作  
品を作って展示するまでの楽しみや、お  
友達にお便りを書く際に、ハガキの片隅  
に一輪の花を押して出したときに感じる、  
何ともいえない安らぎ。それが押し花サ  
ークルの魅力です。

四季折々の思いを花に託して、暮らし  
の中の「オアシス」になればと心に念じ、  
数多くの花々を心ゆくまで押し続けてい  
きたい気持ちでいっぱいです。

どうぞ皆さんもご参加ください。

☎中央公民館 ☎26-2453

## 痴呆予防講演会

### 「痴呆(ボケ)は防げる・治せる」

ボケのないまち  
白石を目指して

7月17日、ホワイトキューブで  
「痴呆予防講演会」が開催されまし  
た。講師は、エイジングライフ研究  
所副所長で、浜松医科大学講師の高  
槻絹子先生でした。



▲講師の高槻先生

スライドを使いながらの高槻先生  
の講演は大変分かりやすく、満員の  
聴衆も熱心に聴き入っていました。  
この講演の一端をご紹介します。

「ボケは治らない、打つ手がない」と  
恐れられています。考えてみて  
ください。今日、この講演を聴きに  
来た人が、明日、身の回りのことが  
できなくなったり、家族の顔も分か  
らなくなったり、夜中に徘徊を始め  
たりするでしょうか？

そんなことは絶対にありません。  
そのようなレベルまで進んだ状態  
は、重度の、いわば完成されたボケ  
(大ボケ)ですから、確かに回復は

困難です。しかし、家族の方などに  
よく聞いてみると、最初に、「ちょ  
っとおかしいな？」(小ボケ)と気  
づいたときから3年以上、ときには  
7、8年もかかって進行しているこ  
とが分かります。  
重度の痴呆症状が出てきて、どう  
にも手に負えなくなつて診察に来る  
ことが多いので、「ボケは治らない」  
という誤解が一般の常識になつてし  
まったのです。

ボケだって、早期発見・早期治療  
が大切なのです。小ボケ・中ボケは  
治るのです。  
楽しみや意欲を持ち、いきいきと  
暮らしていることが、脳の健康にと  
ても大切です。  
脳の機能を活性化させ、「かくし  
やく」と「すこやかでボケない人生」  
を完走しましょう。

市では、平成14年度から、「ボケ  
ないためのいきいき教室」を実施し  
ており、現在、平成16年度の受講希  
望団体を募集しています。老人クラ  
ブ、自治会、地区のボランティアア  
グループなど、地域で行うボケ予防活  
動に関心のある団体の方は、お問い  
合わせください。

健康推進課 ☎22-1362

## 文化資産デジタルアーカイブ制作事業に 取り組んでいます

長い歴史を持つ伝統文化を永久保存

市では、郷土への愛着や誇りとい  
った地域住民の皆さんの郷土意識を  
高め、地域の文化資産の見直し・再  
評価へのきっかけとして、「白石市  
文化遺産デジタルアーカイブ事業」  
に取り組んでいます。

この事業は、市民の皆さんが継承  
している「盆踊り」、「百矢納め」、  
「神楽」などの伝統文化の映像や画  
像をデジタル化して永久保存し、継  
承と活用を図っていくものです。

### 【デジタル保存する文化資産】

- ・斎川盆踊り(斎川地区)
- ・小原盆踊り(小原地区)
- ・小原百矢納め(小原地区)
- ・榊流大町大神楽(大鷹沢地区)
- ・図書館が所蔵している古文書



斎川盆踊り(8月14日)



小原盆踊り(8月14日)

市では今後、保存した貴重な資料を、多くの市民の方がご覧になれ  
るよう、機会や手段を考えていきます。☎情報広報課 ☎22-1500  
社会教育課 ☎22-1343